

本県の教育環境を取り巻く状況

課題と検討事項

県立高等学校再編振興計画について(H26策定)

生徒数の減少、社会性の育成と進路保障、南海トラフ地震への対応といった現状・課題に対応し、10年間の県立高等学校の在り方と方向性を示した計画

県立高等学校再編振興計画の取組(H26～R5)

○生徒数の減少に伴う適正な学校規模と適切な配置・南海トラフ地震への対応

【学校規模】

- ・適正規模：県全体として1学年4～8学級
- ・最低規模：全日制（昼間課程）1学年2学級以上
特例校：1学年1学級（20人）以上
定時制（夜間課程）学校全体の生徒数を20人以上

最低規模（特例校）を下回っている学校：3校

中芸高等学校、高知追手前高等学校吾北分校、中村高等学校西土佐分校

定時制（夜間課程）最低規模を下回っている学校：8校

室戸高等学校、高知東工業高等学校、高岡高等学校、須崎総合高等学校、佐川高等学校、大方高等学校、宿毛高等学校、清水高等学校

【適切な配置・南海トラフ地震への対応】

高知南中学校・高等学校と高知西高等学校との統合

須崎工業高等学校と須崎高等学校との統合

安芸中学校・高等学校と安芸桜ヶ丘高等学校の統合

清水高等学校の高台移転

○次代を担う人材を育てる教育環境の整備

- ・ICTの活用による中山間地域の高等学校の教育の充実
1人1台タブレット整備（R3年度完了）11,726台
遠隔授業配信センターからの授業配信

R2：10校 14講座 R5：16校 33講座

○生徒や保護者の期待に応える教育活動の推進（魅力ある学校づくり）

室戸高等学校（女子野球・ジオパーク学）、嶺北高等学校・西土佐分校（カヌー）

大方高等学校（女子サッカー・地域学）、四万十高等学校（ドローン）等

○キャリア教育の充実

生徒数の推移

中学校卒業生数、R5～推計

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
生徒数 (国公立中3)	6,658	6,585	6,543	6,184	6,008	5,743	5,701	5,808	5,526	5,666	5,305	5,322	5,162	5,195	5,097	5,007	4,989

○全国から本県の県立高等学校を志願する生徒の状況

年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5
入学者数	13	13	10	12	15	25	31	22	30
うち地域みらい留学による入学者数					6	11	21	16	20

課題

生徒数のさらなる減少による高等学校の在り方と学びの保証
教育環境を取り巻く変化への対応

検討のポイント

生徒数の減少による高等学校の在り方と学びの保証

- ・学校、課程、学科等の適正配置及び適正規模
特に中山間地域の核として立地する高等学校の在り方
- ・小規模校の学びの保証
ICTの活用、遠隔授業の取組の充実
- ・生徒数の確保に向けた対策
地元中学校から地元高校への入学者増に向けた取組
県外生徒の受入に向けた取組
地域との連携・協働の充実
- ・高等学校のさらなる魅力化・特色化
地域資源を生かした教育活動の充実
生徒の多様なニーズに応える教育活動の充実
- ・入試制度の在り方
入学定員
各校の特色を生かした選抜方法
入試の実施時期

教育環境を取り巻く変化への対応

- ・Society 5.0社会（AI、ビッグデータ、IoT）における学びの在り方
- ・国の高等学校改革への対応
スクール・ミッションの再定義、スクール・ポリシーの策定、普通科改革

検討スケジュール

R5

- 4月～ 情報収集、調査及び分析（人口動態、中学生の進路、他県訪問等）
- 5月～ 県内全市町村首長及び教育委員会との意見交換・聴き取り
- 6月～ 県内中学生・高校生・保護者へのアンケート調査
- 9月～ 有識者による検討委員会
教育委員会事務局内PT

R6

- 4月～ 有識者による検討委員会
教育委員会事務局内PT
教育委員会協議会
- 12月 次期計画の策定